30日齢前後に疾病が多発するブロイラー農場への衛生管理指導と成果：京都府丹後家保　田中義信

開場後10年間、死亡率5％未満をほぼ維持してきたブロイラー農場（13,100羽飼養）で令和4年に死亡率10％以上となるクール（飼養期間）が出始め、令和5年第2クールでは30日齢前後の鶏で皮膚が暗紫色を呈し、死亡羽数が増加。剖検では皮下に血様物がみられ、*Clostridium perfringens*を分離。同年第3クールでは死亡鶏の心、肝、脾から*E. coli*が分離。その後も死亡羽数の増加が繰り返し認められ、鶏舎網壁面にフケ等が厚く付着していたため、オールアウト洗浄消毒後に鶏舎内細菌調査を実施。鶏舎壁、給餌器下、残水から*C. perfringens*が分離されたことから、以下の対策を実施。①消毒方法の見直し、②高温高圧洗浄機の導入、③鶏舎内外網壁面の洗浄消毒、④飼養環境の快適性（温度、湿度、風量）について指導。3鶏舎平均死亡率は令和5年第2、3、令和6年1クールは16.4％、9.3％、4.4％。対策後の令和6年第2,3,4,5クールは1.2％、1.3％、0.7％、0.9％へと減少。死亡率の継続的な低減は65℃の水洗による高い洗浄及び殺菌効果によるものと考えられる。